グローバル人材育成を担う県立学校として

県立松戸国際高等学校

１　学校の概要

本校は昨年度（令和４年度）創立５０年目を迎えた、**普通科５クラス、国際教養科３クラスの全日制単位制高校**で、生徒数は９４７名（令和５年 10 月 17 日現在）です。

校訓は、Esperanza。スペイン語で「**希望**」を意味し、本校の国際交流棟は、通称「エスペ棟」として様々な行事、特に国際交流の場として活用されています。

本校の育てたい生徒像は、「松国力を高め、社会力豊かなグローバル人材を育成する」で、それに基づいた本校のスクール・ポリシーは、次のとおりです。

〇松国力１【心情】セルフコントロール力と共生の心
〇松国力２【智能】広く深い教養と読解力、確かな言語運用能力と課題対応力、主体性
〇松国力３【体軀】心と身体の健康を管理する力
〇社会力豊かなグローバル人材【希望力行】異文化理解に努め、様々な立場の人たちと協力して課題を解決し、より良い社会の構築に貢献できる人材

今年度も、千葉県を代表する**国際理解教育・英語教育の実践校**として、文部科学省から「**教育課程実践検証協力校事業**」、県から「**英語教育拠点校**」の指定を受けています。

また本校は**ユネスコスクール**加盟校であり、短期留学や留学生の受け入れなど多彩な国際交流事業を行っています。在籍生徒もグローバル社会を反映し、外国籍及び海外帰国生徒は計５９人在籍しています。外国籍生徒の出身国は、中国（１５人）、フィリピン（４人）、スリランカ（２人）、パキスタン（２人）、アフガニスタン、ネパール、韓国、モンゴル、ウクライナ、ブラジルなどです。

これに対応する学校組織体制としては、常勤のＡＬＴが４名、韓国語・中国語・フランス語の特別非常勤講師が各１名、外国人相談員４名が配置されています。

このような中で英語４技能（聞く・読む・話す・書く）５領域（聞く・読む・やり取り・発表・書く）の習熟、特に英会話力を高める少人数編成の講座や日本文化に関する特色ある講座を開講し、すべての生徒の語学力の向上に努めています。

なお本校は、「県立高校改革推進プラン　第１次実施プログラム」において、**令和６年度から「グローバルスクール」に指定**されます。成田国際高校とともに本県の英語教育・国際理解教育の拠点校として、オンライン交流を含めた国際交流の一層の充実や、「特別な教育課程」を設定し、２年次２単位、３年次４単位で、外国籍生徒が日本語運用能力を高める機会を増やし、多様性の中で協働するグローバル人材の育成に取り組んでまいります。

２　３つのテーマ別の課題と対策・工夫

今回の「魅力ある県立学校づくり大賞」では、以下の３テーマについて、教育活動をより効果的に推進していくための「課題」と「対策・工夫」、そして「成果」を述べます。

【テーマ１　国際色豊かなグローバル人材育成】

（１）課　　題

本校の生徒は、国際色豊かな教育活動や、実践的な英語力の習熟を期待して、入学してきます。コロナ禍を経て通常の教育活動へと戻った今年度は、担当職員の異動もあり、令和元年度に実施して以来４年ぶりとなり、初めてに近い行事・活動として準備していくこととなりました。具体的には、本校国際部、英語科を中心に、過去の蓄積を紐解き、模索しながらの実践となりました。**「国際色豊かなグローバル人材育成」を目標に、伸びようとする生徒一人一人にとって個別最適な学びとすることが、第１の課題です。**

（２）対策・工夫

●国際部と英語科の職員が中心となって交流の準備や運営を行いました。臨時的な対応や空き授業での対応職員の割り当てを事前に決めて、担当者だけでなく全職員が連携・協力できるよう配慮しました。「**全ての教科が交流の場であり、教科担当の協力が不可欠である**」を合言葉に、各教員が創意工夫して授業を行い、生徒間の交流を深めることができました。

●３年次生徒を対象に、教育実習期間中の本校卒業生が、大学で文部科学省「トビタテ留学 Japan」の参加者として留学した体験をはじめ、海外での様々な体験談や教職を目指す理由など、自分の生き方を生徒に語る場を設けました。生徒は、先輩の話を憧れと共感をもって真剣に傾聴しました。この行事の企画・準備・運営は、国際部教員に限定せず、３年次職員全員で行い、校内協力体制のすそ野を広げていく機会となった取組でした。

先輩の大学生の話を真剣に聞く生徒

●「日豪交流」では、担当者にとって初めてのことが多く、交流の際のプレゼント交換や体験授業に使用する教材費の予算立てが間に合わず、費用面でたいへん困っていました。幸運なことに、県商工労働部観光誘致促進課から「マレーシアの中高生との交流事業」として組み込んでいただき、交流経費を賄うことができました。本校は今後も定期的に交流が予定され、また突発的な交流事業も受け入れていく役割を担っていく学校であるので、校内で交流経費を予算立てし準備していく必要があると痛感しました。

【テーマ２　外国籍生徒への支援】

（１）課　　題

外国籍生徒の混在する教室で、生活言語が違う、学習言語としての**日本語の習熟度に個人差がある外国籍生徒への学習保障をどうするか、というのが第２の課題です**。現在、「日本語取出し授業」の支援を要する外国籍生徒の出身国は９か国で、母語、日本語の習熟度、成育歴と学習歴、来日に至る経緯と家庭環境、現状への受け止め方と将来設計、日本文化や日本の道徳習慣への適応度などは一人ひとり異なります。外国籍の生徒が、他の生徒と同じ進め方で一律に授業を受けることは、学習の遅れや学校生活への無気力などを招きます。

（２）対策・工夫

①　日本語取出し授業

外国籍生徒の習熟度に合わせて、「親クラス」から離して、**少人数による「日本語取出し授業」を行っています。**計 14 人の教員が担当し、日々悪戦苦闘しています。

＜科目、単位数、対象生徒数＞

国語：1 年次；現代の国語(2 単位)10 人、言語文化(2 単位)10 人
2 年次；実用国語（2 単位）3 人
地歴：1 年次；地理総合(2 単位)10 人、2 年次；歴史総合(2 単位)3 人
公民：2 年次；公共(2 単位)3 人
数学：1 年次；数学Ⅰ(3 単位）3 人、数学Ａ(2 単位)3 人
理科：1 年次；化学基礎(2 単位)10 人、生物基礎(2 単位)10 人
保体：1 年次；保健(1 単位)10 人
英語：1 年次；総合英語Ⅰ(4 単位)2 人、ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ･ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝⅠ（2 単位）
→選択日本語Ⅰ　8 人
家庭：1 年次；家庭基礎(2 単位)10 人
学校設定科目：2 年次；日本語Ⅱ（2 単位）3 人

年度始めと成績処理後に**「取出し授業担当者会議」を開催**し、各授業での生徒の状況を教員間で情報共有し、生徒全員が日本語検定２級を取得して卒業できるように、一人一人を支援する組織的取組みを目指しています。前期の成績が整う時期の担当者会議では、成績会議に諮る成績概況が情報共有され、学習成果を基に担当者が外国籍生徒と保護者の意向を確認し、親クラスに戻す生徒の報告や次年度の選択科目希望も職員間で情報共有しています。

②　グローバルクラスルームの設置

外国人相談員が来室する部屋を、**外国籍生徒の居場所と交流の場「グローバルクラスルーム」として設置**しています。部屋には、生徒指導力と英会話力がある職員が常駐して、外国籍生徒の「第２の担任」の役割を担い、文化的な違和感や言葉の壁が原因のトラブルの予防にきめ細かく努めています。具体的な業務は、①入学前の準備段階等での親への説明②外国籍生徒一人ひとりの悩みや希望などを掌握　⇒③「取出し授業担当者会議」を通して取出し授業の成果と課題を掌握　といった流れになります。

【テーマ３　職員の情報共有と連携協力】

（１）課　　題

現在、英語科職員や ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）部会員などのスキルを持った職員のみが担当している**「国際理解、英語力伸長活動」を、全教員の取組にすることが、第３の課題です。**教員連携の障害として、勤務場所が全職員室や学年室ではなく、個別の教科の研究室に分かれていることがあります。本校は生徒定員３２０人の大規模校で、非常勤を含む全職員数が９０名を超え、コミュニケーションが取りづらい面が課題となっています。少数の担当者だけで多忙となって疲弊するのではなく、多くの職員が協力して遂行するには、教員間の連携協力と、まずはその基盤とな

る情報共有が必要です。

（２）対策・工夫

採点システム「百問繚乱」を利用し始めた時期に「採点時間の短縮によい」「採点ミスも少なくて効率的である」という声が第１回考査の採点業務で活用した職員間で広がり、管理職の周囲への声掛けもあって、職員間の教え合いによる利用者が増えています。

職員研修の時間を設けるよりも、実際に使っている職員から個別に教わってスモールステップでできることを増やしていく方法が有効であることを踏まえて、職員の Teams での各種の伝達や情報共有、職員研修を放課後に参集させることなく、Teams で配信し Forms で回答して自分の空き時間に回答入力していく方法で業務の効率化を実感させました。

例えば、不祥事研修で動画を視聴した感想と生徒指導提要における不適切な指導の事例を Forms で回答し、Teams で共有する方法や、チャットでの個別の伝達を管理職が活用することで、利便性を実感させ、活用のきっかけとしています。

３　成　　果

【テーマ１　国際色豊かなグローバル人材育成】

①　オーストラリアの短期留学とその交換留学生のホームステイ受け入れ

オーストラリアでの交流風景

令和５年７月～8 月の２４日間、オーストラリア国ヴィクトリア州カソリック・カレッジ・ウォドンガ校へ、本校生徒１５名と引率職員２名が訪問しました。写真は、現地での様子です。本校生徒は、相手校生徒の家庭にホームステイしながら、授業やバーベキューパーティなどの行事に参加しました。

令和５年９月の７日間、ウォドンガ校の生徒１８名と引率職員３名が来日・来校しました。生徒は本校生徒の家庭にホームステイしながら本校に通学しました。交流の諸行事は、生徒が主体となって企画・運営して、日英同時会話で進められました。予定変更により時間が余った時には、生徒の提案で、少人数のグループを作り、初対面にもかかわらず和やかな雰囲気の英会話での自己紹介やメールアドレス交換ができました。各教室に入っての通常授業への参加でも、教科担当からの指示だけでなく、隣席の生徒がオーストラリアの生徒を積極的にサポートして授業に参加できるようにしていました。右の写真は、本校での交流の様子です。

本校での交流風景

最終日は本校１年次校外学習として横浜に一緒に行き、日豪異文化交流や英会話での交流が行われました。

② 長期留学生との交流

デンマークからの１年間の日本での留学生活を振り返って、ホームルームクラスで、日本語でのプレゼンテーションや英語での質疑応答によるお別れ会が和やかに行われました。

「デンマーク人から見た日本の文化や習慣」について話を聞くことで、本校生徒が当たり前と思っていたことを相対化し、グローバルな視点で再考するきっかけとなりました。

③ 台湾修学旅行事前指導、オンライン交流

１年次生徒に Forms で募集し、その中から２０名を選抜し、６月９日（金）放課後、来年度の「台湾修学旅行」先で交流が予定されている「桃園市立桃園高級中学校」生徒２１名とオンラインでの異文化交流を行いました。生徒たちは英語で積極的に互いの文化について意見交換しました。下の写真は、両校生徒の記念撮影の様子です。

オンラインでの両校生徒の記念撮影

【テーマ２　外国籍生徒への支援】

① 日本語取出し授業

４月入学時は、「日本語取出し授業」に対して不安を抱く外国籍生徒が担当者に相談に来ました。「自分が劣っているから皆と同じ教室で授業を受けられないのか、取出し授業を望まない」といった相談に対して、担当者と担任が生徒の心情を理解しながら、日本語による授業が理解できるようにするための対応であることをていねいに説明し理解を得ていきました。

現在は外国籍生徒も「日本語取出し授業は有益」と受け止めています。外国籍生徒一人ひとりの習熟度に合わせて、現時点で必要な日本語能力を確実に向上させ、卒業後の進路決定に役立つよう、日本語検定２級取得を目標に個別最適な指導が進められています。

「取出し授業担当者会議」は、外国籍生徒の学習状況の共有の場に留まらず、外国籍生徒を抱える本校の全職員の課題認識と意識向上に役立っています。日本語を母語としない生徒の学力向上に向けた評価方法についての議論や、指導方針の議論の場となっています。

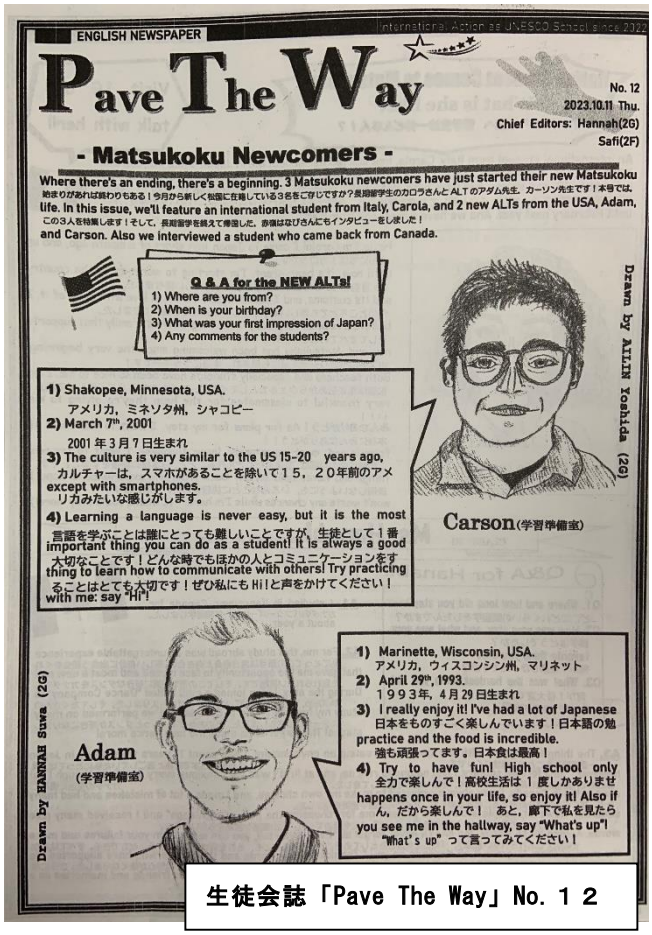
② グローバルクラスルームの設置

グローバルクラスルーム設置による外国籍生徒の居場所と交流の場が確保されたことにより、外国籍生徒間で「文化祭に、英語劇を企画しよう」という声が上がりました。何度も打ち合わせを行い、当日は英語による創作映画の上演が実現しました。右の写真は、文化祭でグローバルクラスルームのメンバーが映画上映した際の様子です。

グローバルクラスルーム生徒による文化祭映画制作

「グローバルクラスルーム」は「生徒会室」の隣に置き、外国籍生徒、生徒会役員と生徒会顧問、グローバルクラスルーム指導者、外国人相談員が入れ替わり関われるように工夫しました。単なる「支援」の場ではなく、国籍や文化の違いを超えて相互に認め合いながら、誰もが過ごしやすい場になるようにするためです。「グローバルクラスルーム」という部屋を、国際交流、相互理解の場として、本校の核として、ていねいに育成してまいります。

日本語と英語で資料投影した生徒総会



ENGLISH NEWSPAPER

International Action as UNESCO School since 2022

Pave The Way

No. 12
2023.10.11 Thu.
Chief Editors: Hannah(2G)
Safi(2F)

- Matsukoku Newcomers -

Where there's an ending, there's a beginning. 3 Matsukoku newcomers have just started their new Matsukoku life. In this issue, we'll feature an international student from Italy, Carola, and 2 new ALTs from the USA, Adam, and Carson. Also we interviewed a student who came back from Canada.

始まりがあれば終わりもある！今月から新しく松国に在籍している３名をご存じですか？長期留学生のカロラさんとALTのアダム先生，カーソン先生です！本号では，この３人を特集します！そして，長期留学を終えて帰国した，赤嶺はなびさんにもインタビューをしました！

Q & A for the NEW ALTs!
1) Where are you from?
2) When is your birthday?
3) What was your first impression of Japan?
4) Any comments for the students?

Drawn by AIIN Yoshida (2G)

Carson（学習準備室）

1) Shakopee, Minnesota, USA.
アメリカ，ミネソタ州，シャコピー
2) March 7th, 2001
2001年３月７日生まれ
3) The culture is very similar to the US 15-20 years ago, except with smartphones.
カルチャーは，スマホがあることを除いて１５，２０年前のアメリカみたいな感じがします。
4) Learning a language is never easy, but it is the most important thing you can do as a student! It is always a good thing to learn how to communicate with others! Try practicing with me: say "Hi"!
言語を学ぶことは誰にとっても難しいことですが，生徒として１番大切なことです！どんな時でもほかの人とコミュニケーションをすることはとても大切です！ぜひ私にもHiと声をかけてください！

Drawn by HANNAH Suwa (2G)

Adam
（学習準備室）

1) Marinette, Wisconsin, USA.
アメリカ，ウィスコンシン州，マリネット
2) April 29th, 1993.
１９９３年，４月29日生まれ
3) I really enjoy it! I've had a lot of Japanese practice and the food is incredible.
強も頑張ってます。日本食は最高！
4) Try to have fun! High school only happens once in your life, so enjoy it! Also if you see me in the hallway, say "What's up"!
全力で楽しんで！高校生活は１度しかありません，だから楽しんで！　あと，廊下で私を見たら"What's up"って言ってみてください！

生徒会誌「Pave The Way」No.１２

「生徒総会」は、生徒会役員の発案で、発言者が、日本語での発言の後に、英語に翻訳して発言し、総会資料も上の写真のように日本語・英語版で投影し、諸行事の挨拶は、日本語・英語両方で行われるようになりました。

生徒会誌日本語・英語版「Pave The Way」（左の写真）を生徒会が定期発行しています。「学校紹介」も６ヶ国語表記で配付しています。これらの取組は生徒が主体となって企画・運営されています。

【テーマ３　職員の情報共有と連携協力】

① Microsoft Office365 活用推進による校務効率化

令和５年４月まではTemasやFormsの活用が少数派でしたが、半年かけて、職員間の連絡や、生徒への連絡に活用することが通常となりました。大部屋職員室に代わる職員間の意思疎通の仮想空間の場として、**Teamsの連絡や個別のチャットが有効活用され、職員間のコミュニケーションが飛躍的に高まり、「連携しよう」という意識が生まれています。**

② 様々な機能を活用した授業効率化と内容の深化

授業においてプロジェクター投影による板書の効率化を実践する職員が増えています。「**百問繚乱**」を活用して効率的な考査の採点を行っている職員も増え、便利さを実感しながら相互に教えあって広がりを見せています。**Microsoft Office365**を活用して、TeamsやFormsによる課題提示と回答提出やディスカッション授業への活用、One NoteをTeams上で共有するClass Notebookでの授業内グループ学習、Kahoot!を活用した知識注入型授業から

の転換を図る活用など、さまざまな取組によって、授業の効率化と学習内容の深化に取り組んでいます。ICT に苦手意識のある教員も、使い方を同僚から教えてもらい便利さを理解することで、授業の課題提示と回答回収、授業内での意見集約などに活用するようになっています。

更に、１年次では「総合的な探究の時間」に SDGs の発表会のクラス予選、校内予選が行われ、３年次「国際関係」の授業で、グローバル・イシュー発表会がありました。３年間の SDGs 学習の積み重ねが見える内容の発表が行われ、国際交流経験などを基に、世界情勢などを「自分ごと」として考え議論し、意見を発信する探究的学習活動が実践されています。

４　広報・報道

現在は、学校ホームページでの広報活動が中心です。オーストラリアでの活動を毎日投稿した様子が下の資料です。本校では、行事担当者が行事終了後に学校ホームページに記事を投稿し、管理職が承認掲載することが定例化されており、国際交流、学校行事、部活動などでの生徒の活躍を迅速に掲載しています。今後、新聞等への積極的広報など、広く本校の魅力ある取組や生徒の活躍を、「戦略的広報活動」として行う機会を増やしてまいります。

2023/07/29　オーストラリア短期留学11日目　| by 教職員

本日は昨日の内容を入れ替えて行いました。9名がワークショップに参加し、6名がCCWで授業を受けました。写真はワークショップに参加した生徒の様子です。CCWではESLの授業で発音を学び、また後日に控えた小学校の訪問の準備としてあやとりや折り紙の遊び方を英語で説明する練習をしました。さらにTim先生ことMr.Mansfieldによるオーストラリアについての授業もありました。オーストラリア人の定義、オーストラリアの歴史、First Nations People (Aboriginal People)について、英語では難しい部分は日本語で補っていただき、オーストラリア人の先生からオーストラリアについて掘り下げて教えていただき、大変貴重な経験になりました。また、13歳の現地生の日本語の授業にも参加させてもらいました。「さ」と「ち」などの形の似たひらがな、ひらがなの読みなど、形や英語を使って覚える様子が印象的でした。休み時間には現地生と折り紙をしながら友達になったりと、楽しい時間を過ごしました。今日も一日お疲れ様でした！

2023/08/01　オーストラリア短期留学12日目　| by 教職員

本日はCCWで授業と松国生によるプレゼンテーションがありました。プレゼンテーションでは、出発前に日本で練習したり用意したスライドや道具を使い行いました。観客が予想より多かったり若かったり、苦戦もしましたが、予想より盛り上がった場面もあり、柔軟に対応することの大切さを身をもって学びました。松戸国際高校の授業でも取り組んでいる「観客を巻き込むプレゼンテーション」ができたかな？という感じです。いずれにしても、生徒と教員の今後のモチベーションになりました。

本校ホームページに掲載されているオーストラリア短期留学の様子

５　取組への反響

①　オーストラリアウォドンガ校との交流を経験した生徒の感想

★オーストラリア短期留学は、間違いなく私の中の世界を広げてくれた人生の転機です。少しの勇気でこんなにも考え方が豊かになることをもっと色んな人に知って欲しいし、同じような悩み・心配で踏みとどまっている子にはあと一歩の勇気をだしてチャレンジしてみてほしいと強く思います。オーストラリアで過ごした日々は何ものにも代え難いほど、私の一生の宝です。海外の文化の素晴らしさに触れられるだけでなく、国を見る視点も新しく培うこ

とが出来ました。他にも自分から行動を起こしていなかったら出来ないような貴重な経験や大切な人との出会い、スキルアップがありました。私が体験してきたことをもとに積極的に周りへ発信・良い影響を与えられる人になろうと考えています。
★ホームステイをして良かったことは、相手が話したことに対してどんどん質問をして、会話を弾ませる力が身についたことです。留学生は一生懸命話そうとしているからこそ、その気持ちを大切にして、楽しい時間を過ごせました。 同い年のオーストラリアの友人をつくれたことが良かったです。休日の過ごし方や、放課後にどこに行くかについて話し、日本にはない場所、食べ物、文化も知ることができました。
★日本の文化や食を留学生に教えることができ、オーストラリアとの違いを知ることで、自分も留学生も、他国に対する意識が高まったことが良かったです。

②　オンライン交流を体験した生徒の感想
★相手に伝えるには、正しい文法を使うことだけではなく、話し方や表情にも気を配る必要があると感じました。

③　長期留学生との交流クラス生徒の感想
★考え方の違いを肌で感じることができ、国や文化の違いなど、いろいろと学べました。
★朝と放課後、自分たちは英語で留学生に話しかけて、留学生は日本語で答えようとしていました。きっとお互い、「英語力・日本語力があればもっといろいろ話せただろう」と思うけれど、意思疎通は出来たし、友達として仲良くなるには十分だった。
★留学生の日本語が出来るようになりたいという気持ちがすごかった。刺激を受けました。
★授業中、留学生の隣になった子に、日本語と英語を使って通訳をしようと頑張りました。
★オーストラリア研修に行く前にすごく緊張していたら、「大丈夫だよ」と背中を押してくれました。実際に留学している人の言葉だからとても説得力がありました。おかげで前向きな気持ちになることができました。きっと自分だったら、日本人的に「そうだよね」と相手に共感するところで止まってしまうと思います。さらっと相手を力付ける言葉が出てくるのはすごいと思った。これも文化の違いなのかなと思います。
★「日本ではこうでも、世界全体ではまた違うんだな」と思わせてくれたことがよくあった。
★今でも SNS で繋がっている。将来、デンマークに行くという目標ができました。

④　生徒会誌の発行や生徒総会の企画を進めた生徒会役員の意図と感想
★外国籍生徒が一定数いる現状を踏まえ、日本語のみによる議事進行はまずいという前提があり、外国籍生徒も含めて「生徒全員に内容がわかる、参加できる」という生徒総会をつくりたいと思いました。また、「Pave the way」については、学校生活において情報格差があってはならない、という前提のもと、日本人も外国籍の生徒も理解できる通信が必要であると考え、始めたものです。また、その通信が、松戸国際高校の国際交流活動の土台となり、かつその土台のもとに後輩たちが道を築き、歩みを進めて、松戸国際高校の生徒全員が不安なく過ごせる環境づくりを進めていければと考えます。
　まず、生徒会役員あるいは生徒総会に参加してもらう委員長たちの中にも、外国語に抵抗がある生徒がいることが課題でした。その抵抗感をやわらげ、日本語のみに偏らない形をつ

くることをみんなに納得してもらうのが大変でした。また、パフォーマンスとして英語を使うのではなく、“支援”として英語を使うのだということを理解してもらう点も苦慮したところです。実施したことで、間違いなく松戸国際高校のグローバル化を一歩前進させることができたと思います。特に、2023 年度の生徒総会は久しぶりに対面で行ったため、全校が外国籍生徒の存在を認識し、支援の必要性を理解することにつながったと思います。また、外国籍生徒も積極的に参加することができていたように思います。これらの活動は、外国籍の生徒が多いという松戸国際高校の特色に合わせ、より多くの生徒が積極的・主体的に参加することができる場をつくることができたと思います。

⑤グローバルクラスルームの生徒の感想

★演劇をみんなでやろうと始まったけれど、みんなが集まらないと進まないので計画を立てるところに苦労しました。最終的には映画撮影になりました。どういうストーリーが良いか、観る人が楽しめるものにしたいという意見や、自分たちのように、松戸国際高校の中でいろんな国から集まってきている人がぶつかり合いながら仲良くなっていく話にしたいという意見とか、それを台本にするのが大変でした。他のクラスのように４０人はいないので、人手が足らなくて困りました。ビデオカメラでなくてスマホで撮影して、３人で徹夜して編集作業をして、日本語字幕を入れるのにとても苦労しました。いろいろな考え方の人が集まっているので、当日のシフトを組むのもみんなをまとめるのも大変だったけれど、こうやって集まる機会があることで、東京駅での撮影にも行ったし、仲良くなれたことが良かったと思います。昨年度の世界を紹介するアトラクションよりは予算が増えて、毎年少しずつ内容も良くなっているので、来年度が楽しみです。

⑥グローバルクラスルームの指導に当たった職員の感想

★外国籍生徒の指導・対応の難しさについてですが、①日本語の理解能力が十分でないことから指導が浸透しにくいこと（言葉の壁）、②それぞれの出身国の教育制度及びその普及状態の差異から、日本の学校教育では当たり前が当たり前でないこと、③日本における在留状態が多様であることから、進路の方向性が様々であること、などなど課題は山積みです。
でも、「目の前の生徒のために頑張るのみ」と思っています。

⑦日本語取出し授業についての外国籍生徒の感想

★取出し授業では、教科書の内容を簡単な日本語で学ぶことで、内容がよく理解でき、大学入学や進学などの将来的な不安もなくなりました。また、少人数で授業を受けることで、みんなと助け合って前に進むことができました。やさしい先生方の指導とともに、「仲良くチームになって一緒に頑張ろう」という気持ちになりました。（スリランカ出身）

★４月から半年ぐらい過ごしました。私は取出し授業はいいと思います。私たちは外国人なので、ふつうの教室の日本語はあまり理解できません。取出しの授業は先生が教える人数も少なくって、先生ももっとゆっくりの日本語を話します。普通の教室よりもわかりやすい。もし、わからなければ、他の外国人に聞くことができる。同じ中国人でわかっている生徒が中国語で説明することができると教えてもらえる。普通の教室ではできない。それに取出しの授業があったら、外国人たちはみんな仲良しになります。それもいいと思います。（中国

出身）

６　今後の方向性

最初に申し上げた通り、本校の校訓は「希望」です。

本校には、成田国際高等学校とともに県内の英語教育・国際理解教育の拠点校の一つとして、多くの生徒が「希望」をもって入学してきます。

生徒をはじめ保護者や地域、そして交流校の期待に応えるため、本校は前述した３つの課題などに取り組み、教育の充実を進めてまいりました。

令和６年度に「グローバルスクール」になるにあたり、「国際交流の一層の充実」は不可欠であり、これまでに実施してきた、長期留学の派遣・受入れ、アメリカとオーストラリアへの短期留学の派遣、オーストラリアからの短期留学の受け入れ、また文部科学省や県、大学等の依頼による国際交流活動の受入れなどを、ますます盛んに行ってまいります。

これに加え、時差の小さいオーストラリアや台湾とのオンラインによる交流は、相手校から定期的に実施する希望が寄せられている状況にあります。

また、外国籍生徒の日本語能力の向上について、「特別な教育課程」として令和６年度から日本語学習の支援準備をしています。本校に在籍する、またこれから入学してくる多くの外国籍の生徒の学びを支援していくとともに、それぞれが持つ文化の特色を生かしつつ他の生徒と共に学校生活を活発にして相互に伸ばし合う教育環境を推進するとともに、外国籍生徒の国内における進路を保障してまいります。

ICT 活用による学習指導の改善の推進については、教員各自が工夫を凝らしながら進めています。１年生は一人一台端末を購入しており、２，３年生についてもスマートホンが中心ですが、各自が端末を活用しています。ICT を得意とする教員だけではなく、全職員が、生徒にとって必須の文房具として学習活動に活用する方向に進んでいます。資料・教材やプレゼンテーションのための画像提示だけでなく、プリントや課題の配付・提出、授業内での意見集約などが行われています。今後プレゼンテーション動画を提出する課題学習を計画している教員もおり、それぞれの取組を職員が相互に共有しながら活用が進んでいます。

これらの取組を進めるには、これにあたるための人材・定員の裏付けは欠かすことはできません。職員の働き方改革推進のため、Teams を職員間の連絡ツールとして指定し、散在する職員間の情報交換を円滑に行うとともに、会議資料のペーパーレス化や時間短縮化を推進してまいります。それでも、業務が多岐にわたり、学習内容を保障するための準備や各自の研鑽のためにかける時間は削ることができません。これからも適切な人材・定員配置の補強が望まれるところです。

これまでも本校の教育活動には、文部科学省、UNESCO、県教育委員会、千葉県庁、松戸市、公益財団法人松戸市国際交流協会などからご支援を頂戴し実現できてまいりました。

本校には優秀かつ改善に積極的な職員が多く勤務し、恵まれた環境にあると思います。

グローバルスクールとして、より一層の連携・協力によって、本校の教育目標にもある「社会力豊かなグローバル人材」を育成してまいります。

松戸国際高等学校　校長　飯生政之